

# Salon

Vol.102 2016年5月 新緑号



ホール3Fアーティストラウンジ内壁画 ポール・ゴッアマン作「馬とヴァイオリン」

CONTENTS

- 01 Prime Interview — プラハ・グアルネリ・トリオ
- 03 Phoenix Presents — 2016年度主催公演一覧  
須川展也 サクソフォンアドベンチャー
- 05 Pick Up
- 07 Essay de say — 音楽と人と時間 ～梅田の街で思う～ 中村恵理

# 9月 ティータイムコンサートに登場 チェコの伝統を体現する名人集団 プラハ・ガールネリ・トリオ



チェネック・パブリーク(ヴァイオリン)とマレク・イエリエ(チェロ)、そしてイヴァン・クランスキー(ピアノ)という3人の名手により、1986年に結成されてから、今年でちょうど30年。「プラハ・ガールネリ・トリオ」は、“ボザール”や“フロレスタン”といった古くから続く名アンサンブルが惜しまれつつ解散して以降、特に貴重な常設のピアノ三重奏団として、世界の第一線で輝かしい活躍を続けている。そんな円熟の名人集団が9月、ザ・フェニックスホールのティータイムコンサート・シリーズへ降臨し、母国が誇る大作曲家スークとスメタナ、そしてブラームスによるピアノ三重奏の佳品をじっくりと聴かせる。卓越した音楽性と阿吽の呼吸で名演を重ねて世界中の聴衆を虜にしつつ、なお研鑽を怠ることなく、そのアンサンブルの精度と音楽性を磨き上げて来た名手たち。その真摯で謙虚な言葉は、まるで彼らが紡ぐハーモニーのように温かな音楽への愛情に満ちている。

(取材・文:寺西 肇/音楽ジャーナリスト)

「プラハ・ガールネリ・トリオ」結成のきっかけは、何だったのでしょうか？

**マレク・イエリエ(以下M)** イヴァンは、チェネックと私、両方とずっとデュオで演奏していたんです。やがて彼はそれらを区別できなくなって(笑)、2つのコンサートを一度にやるようになり、遂に私たちは、ふたつのデュオを合体させて、ひとつのピアノ・トリオを創ることを決めたって訳です。

ピアノ・トリオの醍醐味とは？そして、最も重要なものとは？

**イヴァン・クランスキー(以下I)** 私たちは共に演奏し始めた時点から、トリオだからこそ生み出し得る、偉大なレパートリーの多彩さや豊潤さ、濃密さをずっと楽しんでいました。このような

室内楽のジャンルにおいては、ソリストとしての経験がとても重要である一方、時に一步引いて、他の楽器を輝かせるための余地を残しておくことができることも、必須の能力です。

同じメンバーで、長く活動を続けられるコツとは？

**M** こんなに長い期間にわたって、共に演奏を続けて来られた秘訣とは、お互いに寛容であり、尊敬し合い、それぞれの音楽的な発想を尊重していることですね。そのお陰で、30年を経ても、コンサート活動で海外へ出掛ける旅行の時間を、共に分かち合っていますよ。

アンサンブル名にも「ガールネリ」と冠されていますが、やはりガールネリ一族の楽器は特

別ですか？

**チェネック・パブリーク(以下C)** ガールネリ・デル・ジェス(※1)は、ストラディヴァリウス(※2)の最も偉大なライヴァルと目されていて、その壮麗なサウンドが「ストラディヴァリの楽器を凌ぐ」と見なしているソリストも多くいます。私が弾いているヴァイオリンは、有名なアメリカのヴァイオリニスト、エフレム・ジンバリスト(※3)が、かつて使っていた楽器。そして、マレクのチェロはガールネリ一族の始祖アンドレアによって製作された楽器で、大バツハよりも1歳年上です。

長い音楽の伝統を持つチェコ。どのような点に、それをどう感じていますか？

# 音楽の礎を愉しみ 幸せに

**I** アントニン・ドヴォルザークは生前、「チェコ共和国は、ヨーロッパの音楽学校だ」と述べました。チェコの伝統は、ドヴォルザークによって確立された、独特のクリアなメロディー・ラインに根差しています。

## 日本の聴衆の印象はいかがですか？

**C** 日本での演奏は、楽しいですね。コンサートには、いつも大勢のお客様がご覧になって、熱心に、丁寧に聴いて下さる。そして、私たちは、室内楽の真の価値が分かる人々の前で演奏しているのだ、と感銘を受けています。

**ザ・フェニックスホールでのステージで、最初に取り上げるのは、スークのエレジー。短いけれど、とても美しい曲ですね。**

**M** スークはドヴォルザークの弟子で、娘婿でもあります。この「エレジー」はチェコの歴史の草創期を綴った詩に触発されて書かれました。その旋律的でロマンティックな楽曲が、劇的で、あたかも交響楽のような、スメタナによる作品にぴったりの前奏曲になると考えました。

**続くスメタナのピアノ三重奏曲は、チェコ人にとって、特に思い入れ深い作品ですね。**

**I** その通りです。スメタナは、才能にも恵まれていた、最愛の娘を亡くした直後に、この作品を書きました。第1楽章は悲痛な感傷に満たされている一方、第2楽章では彼女の子供時代を回想します。第3楽章と最終楽章は、初期のピアノ・ソナタの主題で始まり、葬送行進曲が続くのですが、これが生気に満たされ、やがて楽観へと導く、輝かしい調べとなってゆくのですね。意外なことに、この作品の初演は、完全な失敗でした。と言うのも、ピアノを弾いていたスメタナが余りにも情緒的になり過ぎて、演奏するのがやっとなという状態だったからです。しかし、ほどなくスメタナが、リストとの出会いによって、再び創作へ向き合うのに必要な衝撃を受けて、この作品はチェコの室内楽にとって、栄えある存在となりました。

**そして、最後は、ブラームスの第1番。改訂に伴い、この曲には2つの版がありますが、第2稿を使いますか？ また、ブラームスの3曲のうち、この曲を選んだ理由は何ですか？**

**M** もちろん、第2稿の方を演奏します。下書きにあたる初期稿よりも、比較しようがないほど、完成度が高いですから。ブラームスの若い時代の作品の多くは、アイデアと創意に満ちています。彼が年齢を重ねて、再びこれらに立ち返り、変換することで、それらの作品は全く異なる次元の完成度と円熟味、奥行きを得ました。そして、これこそ、私たちが、この作品を最も気に入っている理由なんです。

**ステージ全体を通して、聴衆に「特に、ここを味わってほしい」という点は？**

**C** 私は、作品の全てを理解し、作曲家によって込められた意図を知ろうとする必要はないと思います。ただ、聴いて下さる方々が私たちの音楽を愉しんでいただけたら。そして、私たちは自分の演奏を通じて、それを聴いて幸せに満ちている人たちの心に触れられたら、と願っています。

**室内楽と聴衆との関係を、どう捉えていますか？**

**M** 音楽とは、コミュニケーションのための器のようなもの。そして、オーケストラのコンサートに出かける機会は、室内楽を愉しむ機会よりもおそらく多いでしょうが…でも、全く逆に、室内楽は高尚なものではないんです。実際に、ほとんどのオーケストラ奏者は、室内楽によって鍛えられ、多くの人が自分たちの音楽教育において、最も重要な部分を占めていたと考えています。しかし、室内楽は、より耳の肥えた聴衆が愉しんでいるのも事実です。なぜなら、多くの場合、作曲家の感情を最も直接的に表現するものであるから。例えば、スメタナのピアノ三重奏曲のように…。

**「ブラハ・ガルネリ・トリオ」の最終目標とは？**

**また今後、取り組む予定の大きなプロジェクトは？ そして、3人にとっての夢とは？**

**I** 私たちにとって、最終目標は存在せず、ただ、いつまでも演奏し続けてゆくだけです。音楽と言う天空には、限りがないですから。これからのプロジェクトとしては、女性作曲家の作品だけを集めた新録音で、結成30周年を祝いたいと考えています。そして、クラシック音楽の伝統を引き継ぎ、その世界における重要性を高めるために、ほんの少しでも貢献できれば。それが、私たちの夢ですね。

ブラハ・ガルネリ・トリオ  
(Guarneri Trio Prague/弦楽三重奏団)

1986年の結成の後、目覚ましい活動で国際的な耳目を集め、完璧な合奏と際立った音質、技術の高さによって第一級の室内楽アンサンブルの評価を確立した。メンバーは創設四半世紀を経ても創設時のままで、数々の国際音楽祭やコンサートホールに定期的に演奏を重ね、欧州や米大陸、オーストラリア、日本へツアーを行っている。母国チェコのスプラフォンや仏ブラガ・デジタルズといったレーベルでベートーヴェンやメンデルスゾーン、ショスタコーヴィチ、シューベルト、モーツァルト、ブラームスのピアノトリオ全曲を録音。仏ディアパゾン・ドールやル・モンド・ドゥ・ラ・ミュージックといった賞を受けている。他にもレパートリーは広く、ウィーン古典派と同時代のポヘミアの作曲家ヤン・ヴァーツラフ・ヴォジーシュクやアントニン・レイハ、またチェコのルボス・ファイザーやスイスのチューリング・ブレイムといった現代作曲家の曲も手掛けている。2011年・12年のシーズンは結成25周年を記念して世界で演奏を重ね、英BBCやラジオ・フランスをはじめ、オーストリアやスイス、北ドイツや南ドイツの各放送協会が収録・放送した。使用楽器は、チェネック・パブリックが1735年ガルネリ・デル・ジュスによるヴァイオリン「ジンバリスト」、マレク・イェリエが1684年アンドレーア・ガルネリのチェロ。

※1 イタリア・クレモナの弦楽器の名工ガルネリ一族の3代目、バルトロメオ・ジュゼッペ・アントーニオ(1698~1744)が製作した楽器。製作者が胴体内部に貼ったラベルに、シエナの聖人ベルナルディーニの印が記され、ここにある「HIS」の文字がギリシャ語によるイエスの綴り字を示すことから「Guarneri del Gesùイエスのガルネリ」と称された。同じ理由から、製作者本人も「ジュゼッペ・デル・ジュス」とも呼ばれている。

※2 同じクレモナの名工、アントーニオ・ストラディヴァリ(1644~1737)が製作した弦楽器の総称。言うまでもなく、現代においては、銘器の代表格として知られる。

※3 Efreim Zimbalist(1889~1985)はロシア出身、主にアメリカで活躍。名教師としても知られる。

「ブラハ・ガルネリ・トリオ」は、2016年9月30日(金)午後2時開演。入場料4,000円(指定席)、友の会3,600円。学生1,000円(限定数。ザ・フェニックスホールチケットセンターのみお取り扱い)。チケットのお求め、お問合わせは同センター(電話06-6363-7999 土・日・祝を除く平日10時~17時)。

[プログラム]

スーク:エレジー 作品23

スメタナ:ピアノ三重奏曲 ト短調 作品15

ブラームス:ピアノ三重奏曲 第1番 長調 作品8

あいおいニッセイ同和損保  
ザ・フェニックスホール

## 2016年度 主催公演一覧

2016年度、あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールの主催公演のラインナップです。ホールアドヴァイザーの世界的なヴィオラ奏者今井信子、大阪大学文学部教授(音楽学)の伊東信宏両氏による独自企画をはじめ、弦楽四重奏のジャパン・ストリング・クワルテット、ギターの福田進一氏による公演と公開マスタークラスなどのほか、人気のティータイムコンサートなどを開催予定。「室内楽の殿堂」ならではの、質の高い舞台をお楽しみいただきます。(公演名などは今後、変更となることがございます。)

2016年

発売中  
ティータイムコンサートシリーズ  
5月20日(金) 深沢亮子 ピアノリサイタル

発売中  
ティータイムコンサートシリーズ  
6月3日(金) アンナ・フェドロヴァ ピアノリサイタル

発売中  
アンサンブル・ア・ラ・カルト  
6月11日(土) 上海クアルテット  
出演: ウェイガン・リ(ヴァイオリン)、イーウェン・ジャン(ヴァイオリン)、ホンガン・リ(ヴィオラ)、ニコラス・ツァヴァラス(チェロ)

発売中  
注目アーティストシリーズ  
7月16日(土) 今井信子presents  
“彗星”イサン・エンダース — バッハ「無伴奏チェロ組曲」

発売中  
ファミリーコンサートシリーズ  
7月27日(水) 宮本妥子&後藤ゆり子 親子で楽しむ「パーカッションde大冒険!」  
出演: 宮本妥子、後藤ゆり子(以上マリンバ、パーカッション)、伊沢磨紀(朗読)

発売中  
Kansai Soloists & Ensembles  
8月27日(土) Osaka Guitar Summer 2016 <福田進一と仲間たち vol.7>  
福田進一&ジェレミー・ジューヴ ジョイントリサイタル  
★ギターの教育・啓発事業Osaka Guitar Summer 2016(公開マスタークラス)を8月27日・28日に行います。

発売中  
ティータイムコンサートシリーズ  
9月30日(金) プラハ・グアルネリ・トリオ  
出演: チェネック・パプリーク(ヴァイオリン)、マレク・イエリエ(チェロ)、イヴァン・クラーンスキー(ピアノ)

発売中  
ティータイムコンサートシリーズ  
10月21日(金) 交響的室内楽 ルートヴィヒ・チェンバー・プレイヤーズ  
出演: 白井圭(ヴァイオリン)、ヤニス・リーバルディス(ヴィオラ)、横坂源(チェロ)、幣隆太郎(コントラバス)、フィリップ・トンドゥル(オーボエ)、ディルク・アルトマン(クラリネット)、ハンノ・ドネヴェーグ(ファゴット)、ヴォルフガング・ヴィプフラー(ホルン)

発売中  
ティータイムコンサートシリーズ  
11月4日(金) 石橋栄実 ソプラノの世界  
共演: 藤井快哉(ピアノ)

5月発売  
注目アーティストシリーズ  
11月26日(土) 須川展也 サクソフォンアドベンチャー  
共演: 小柳美奈子(ピアノ)

7月発売予定  
レクチャーコンサートシリーズ  
12月25日(日) 伊東信宏 企画・構成 声のような音/音のような声 三輪真弘作品集  
出演: 三輪真弘(講師/情報科学芸術大学院大学(IAMAS)教授)、岡野勇仁(MIDIアコーディオン)、佐近田展康(プログラム開発)ほか

7月発売予定  
アンサンブル・ア・ラ・カルト  
1月19日(木) 今井信子presents  
アルト・ザ・デュオ — ヴィオラ・声・ピアノで綴る「歌」  
出演: 今井信子(ヴィオラ)、波多野睦美(メゾ・ソプラノ)、高橋優介(ピアノ)

発売中  
サンデー・サラウンド・サロン  
2月19日(日) サンデー・サラウンド・サロン  
【第1部】ザ・ヴィルトゥオーゾ — 周防亮介 ヴァイオリンリサイタル  
共演: 三又瑛子(ピアノ)  
【第2部】「飛翔」の弦楽四重奏 — クアルテット・ベルリン・トウキョウ  
出演: 守屋剛志(第1ヴァイオリン)、モティ・パヴロフ(第2ヴァイオリン)、杉田恵理(ヴィオラ)、松本留衣子(チェロ)

9月発売予定  
レクチャーコンサートシリーズ  
2月26日(日) 伊東信宏 企画・構成 クルターグ・テント『遊び』をめぐって  
出演: 伊東信宏(進行役/大阪大学文学部教授)、北住 淳、姫野真紀(以上ピアノ)

発売中  
ティータイムコンサートシリーズ  
3月17日(金) Phoenix OSAQA 10年 — ジャパン・ストリング・クワルテット  
出演: 久保陽子(第1ヴァイオリン)、久合田緑(第2ヴァイオリン)、菅沼準二(ヴィオラ)、岩崎光(チェロ)  
★弦楽四重奏の教育・啓発事業Phoenix OSAQA 2017(公開マスタークラス)を3月18日~20日に行います。

2017年



5月27日(金)  
10:00 受付開始  
ザフェニックスホール  
友の会優先予約

5月30日(月)  
10:00 受付開始  
イーフェニックス  
E-PHX優先予約

5月31日(火)  
10:00  
一般発売

インターネット予約、ご来店による  
お申込みは6月1日(水)10:00から!

■注目アーティストシリーズ65

2016年11月26日(土)

14:00開演 指定席

一般¥4,000(友の会価格¥3,600)

学生¥1,000(限定数)

チック・コリアにファジル・サイ。世界をリードする須川が挑む、最前線。  
須川展也 サクソフォンアドベンチャー

出演 須川展也(サクソフォン) 小柳美奈子(ピアノ)

曲目 チック・コリア:アルト・サクソフォンとピアノのためのソナタ "Florida to Tokyo"(須川展也委嘱/大阪初演)  
吉松隆:サイバーバード協奏曲(ピアノ・リダクション版)  
ファジル・サイ:組曲 ~アルト・サクソフォンとピアノのための 作品55 ほか(予定)

「サクソフォン界の顔」として、圧倒的な知名度を誇る名手・須川。傑出した演奏と表裏一体で取り組んできたのが、内外の第一級作曲家への新作委嘱。吉松隆の「ファジィバード・ソナタ」をはじめ、多くの名作を世に送り出してきた。今公演ではトルコ出身の奇才ピアニストでもあるファジル・サイ、米国のマルチミュージシャン、チック・コリアの作品など、時空を超える「最前線」の響きを集める。楽器の魅力を伝えるワークショップもお楽しみに。



須川展也(すがわのぶや/サクソフォン) 日本が世界に誇るサクソフォン奏者。東京藝術大学卒業。第51回日本音楽コンクール、第1回日本管打楽器コンクール最高位受賞。出光音楽賞、村松賞を受賞。1998年JT音楽家シリーズTVCM出演、2002年NHK連続テレビ小説『さくら』のテーマ曲を演奏。名だたる作曲家への委嘱を積極的に行っており、その作品の多くがクラシカル・サクソフォンの主要レパートリーとして国際的に広まっている。1989年から2010年まで東京佼成ウインドオーケストラ・コンサートマスターを務めた。2014年にデビュー30周年を迎え、東京文化会館大ホールでの記念公演は完全売切の大盛況となった。これまでに約30枚のCDをリリース。最新CDは2015年発売の「Blue Rondo」(イマジン・ベストコレクション)、ヤマハ吹奏楽団との「ヤマハのオト〜奏する匠のオト〜」(ヤマハミュージックコミュニケーションズ)。2014年には著書「サクソフオンは歌う!」(時事通信社)を刊行。トルヴェール・クワルテットのメンバー、ヤマハ吹奏楽団常任指揮者、静岡市清水文化会館マリナート音楽アドバイザー&マリナート・ウインズ音楽監督。東京藝術大学招聘教授、京都市立芸術大学客員教授。オフィシャルサイト <http://www.sugawasax.com>



小柳美奈子(こやなぎみなの/ピアノ) 東京藝術大学卒業。伴奏のイメージを変えてしまうアンサンブルピアニスト。様々なプレイヤーの呼吸の機微を読み取り、それに寄り添うしなやかな感性を数多くのリサイタル、レコーディングで発揮している。吉松隆「サイバーバード協奏曲」の準ソリストとしてフィルハーモニア管弦楽団ほかと共演。須川展也氏をはじめとする共演での録音CDは10枚数を超える。また、吉松隆、西村朗、長生淳の各氏らから須川氏に献呈された多くのデュオ作品のほぼ全ての初演を手がけている。中でも2003年に発売された須川氏の3枚組アルバム「Exhibition of Saxophone」における絶妙なコンビネーションは大絶賛を浴びた。吉松氏の作品を収録したピアノソロアルバム、パーカッションとのデュオアルバムもリリースしている。海外での演奏も多く、訪れた国はヨーロッパ各国、アメリカ、ロシア、およびアジア諸国など20カ国におよぶ。いずれのステージでも多くの注目を集め、高い評価を得ている。トルヴェール・クワルテットの共演者としてのキャリアも長く、9枚の録音に参加。トリオ「YaS-375」のメンバー。ピアノを安川加壽子、梅谷進、秦はるひ、今井正代、長谷川玲子、本村久子の各氏に師事。

ホール主催・協賛・協力公演チケットのお申込み方法

06-6363-7999

土・日・祝日を除く平日の10:00~17:00

■ザ・フェニックスホール友の会優先予約

- ザ・フェニックスホール友の会会員様の優先予約日です(電話予約のみ)。
- 主催公演1公演につき会員お1人様2枚まで1割引でお求めいただけます。チケット購入の際、枚数制限はありませんが、3枚目以降は一般価格となります。
- 友の会への入会をご希望の方は、チケットのお申込み時にお電話でお申しつけください。同時に優先予約をお受けすることができます。その際、年会費1,000円が別途必要となります。

■E-PHX(イーフェニックス)優先予約

- E-PHX(イーフェニックス)にご登録の方の優先予約日です(電話予約のみ)。
- チケット購入の際、枚数制限、割引はありません。
- 事前にザ・フェニックスホールホームページ、ホール会員のページからご登録ください。お電話での登録はできません。

■一般発売

- 一般発売日は、電話予約のみのお申込みとなります。
- チケット購入の際、枚数制限、割引はありません。

<http://phoenixhall.jp/>

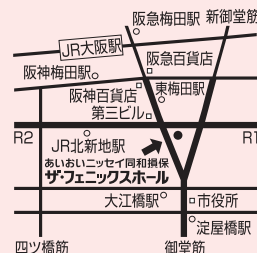
チケットセンターのページからお申込みください

■インターネット予約(主催公演のみ)

- ザ・フェニックスホールホームページ、チケットセンターのページからお申込みください。
- チケット予約フォームに記載のない公演につきましてはおそれ入りますがお電話でお問合せください。
- ホームページ更新の都合により、完売表示のない公演でもお申込み時には完売となっていることもございます。どうぞご了承ください。
- 学生券のインターネットによるご予約は受付いたしておりません。
- チケットご予約フォーム送信後、営業日3日以内に座席の有無、座席番号、入金方法につきまして確認メールをお送りいたします。

直接のご来店による  
お申込み

- ザ・フェニックスホールチケットセンターはホール建物5階、エレベーターを降りて廊下右手です。



チケットお申込み後のお受け渡し方法 下記①または②のどちらかとなります。

- お申込み日から10日以内にザ・フェニックスホールチケットセンターへご来店ください。営業時間は土・日・祝日を除く平日の10:00~17:00です。
- 先に郵便振込みをしていただき、入金確認後チケットをご郵送させていただきます。皆様のお手元にチケットが届きますのはお入金をいただいってから約10日後となります。その際、振込手数料はお客様にてご負担ください。尚、郵送は簡易書留(一律420円)のみとさせていただきます。

振込口座 00940-0-95351 加入者名 ザ・フェニックスホール

あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール協賛公演のご案内

ザ・フェニックスホール友の会会員の方には割引特典があります。当日券をお買い求めの際は会員証をご提示ください。

協賛公演 **Quartet Exploce (クアルテット・エクスプローチェ) Tour 2016** 主催 Quartet Exploce

発売中

2016年8月3日(水) 19:00開演 自由席 一般前売¥2,500(友の会価格¥2,250) 一般当日¥3,000(友の会価格¥2,700)  
学生前売¥1,500 学生当日¥2,000

出演 辻本玲、市寛也、森山涼介、高木慶太(以上チェロ)  
曲目  
J・S・バッハ:無伴奏ヴァイオリンパルティータ  
第2番 BWV1004より「シャコンヌ」  
ラフマニノフ:ヴォカリーズ  
ベートーヴェン:ピアノソナタ 第14番 嬰八短調  
「月光」作品27-2  
カサド:親愛なる言葉  
パースタイン:ウエストサイド物語メドレー ほか

今年の夏もカルテット・エクスプローチェが帰ってきました!定番のバッハのシャコンヌからミュゼルのウエストサイド物語のメドレー、ノリノリのピアノまで色彩豊かなプログラムをお届けします!今回のメインはあのピアノの名曲、ベートーヴェンのピアノソナタ“月光”です。ピアノの名曲とエクスプローチェの化学反応、期待が高まります!チェロ四本の熱い響きをぜひ肌で感じて頂きたいです!ぜひお越しください!



協賛公演 **A.F.セルヴェ没後150年、G.カサド没後50年記念  
チェリスト=コンポーザー・コレクション  
林裕 チェロリサイタル**

主催 音楽企画ユーモレスク

7/15(金)発売

2016年10月15日(土) 14:00開演 自由席 一般前売¥3,500(友の会価格¥3,150)  
一般当日¥4,000(友の会価格¥3,600) 学生前売・当日¥2,000 ※友の会割引は1会員につき2枚まで。

出演 林裕(チェロ)、佐竹祐介(ピアノ)  
曲目  
A・F・セルヴェ:タンホイザーのモティーフによる  
デュオ プリリアント、ファンタジー 作品8  
G・カサド:ボアブティルの嘆き ほか

【チェロのパガニーニ】と呼ばれたベルギーのチェリスト、セルヴェの作風は、ドラマティックなオペラの様で、とても華やかです。カザルスの高弟カサドは作曲家としても有名でした。出版されていない手書きの楽譜を含め、貴重な文化遺産を披露します。誰にでも受け入れられ、チェロファンにとってはレアなコンサートをお聴き逃しのないよう、お待ちしております。



協賛公演 **風ぐるま2016年秋 ~夢のもつれ~**

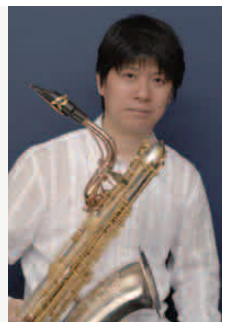
主催 風ぐるま

6/20(月)発売

2016年11月18日(金) 19:00開演(プレトーク 18:40開始) 自由席 一般前売¥4,000(友の会価格¥3,600) 一般当日¥4,500(友の会価格¥4,050)

出演 高橋悠治(ピアノ)  
波多野睦美(歌、語り)  
栃尾克樹(バリトン・サクソ)  
曲目  
高橋悠治(詩/時里二郎):  
「鳥のカタコト 島のコトカタ」、  
「納戸の夢」あるいは「夢のもつれ」

関西在住の詩人、時里二郎の世界を、高橋悠治が音にする一晩。時里二郎は「ジバング」「翅の伝説」「石目」などの詩集を発表し、そのいずれもが高い評価を受けています。その独自の世界を、作曲家・ピアニストである高橋悠治が、繊細かつ大胆に言葉を音楽にして、歌曲およびモノオペラを作曲しました。<語り>と<歌>が交錯して聴く者の耳を幻惑する、唯一無二のコンサートです。作者ふたりのプレトークともにお楽しみください。



協力公演 **サマーミュージックフェスティバル大阪2016 in The Phoenix Hall  
夏祭なにわなくとも室内楽Vol.8 ~ソワレ、君は永遠だ  
《デュオからオクテット(八重奏)まで名曲オンパレード!》**

主催 大阪アーティスト協会  
構成・監修:網干毅

発売中

2016年7月17日(日)、18日(月・祝) 17:00開演 自由席 一般前売・当日¥4,000(友の会価格¥3,600) 小中高生¥1,000 セット券¥7,000

出演 【7/17】金関 環、菊本恭子、佐野智子、住吉のりこ、釋 伸司(以上ヴァイオリン)、中島悦子、椎名弘明(以上ヴィオラ)、夏秋 彩、小棚木 優、山岸孝教(以上チェロ)、岡原さつき(トランペット)、竹本裕一(トロンボーン)、野津臣貴博(フルート)、小池泉、竹内愛未、浅井久視子(以上ピアノ)  
【7/18】ギオルギ・バブアゼ、田辺良子(以上ヴァイオリン)、中島悦子(ヴィオラ)、大町 剛(チェロ)、滝本恵利(コントラバス)、篠原猛浩、島田 香(以上クラリネット)、東口康之(ファゴット)、世古宗 優(ホルン)、武村美穂子、福原彩乃(以上フルート)、小林千晃(オーボエ)、木下たまみ、和泉真子、笹村直子、新庄桃子、小笹山紀子、岡林純香、源氏万記子、中川美穂(以上ピアノ)  
曲目 【7/17】メンデルスゾーン:弦楽八重奏曲 変ホ長調 作品20、ピアノ三重奏曲 第2番 八短調 作品66  
プロコフィエフ:フルートソナタ ニ長調 作品94  
ブラッハー:ディヴェルティメント 作品31  
朴 守賢:遠く流れる夏の歌(トランペット、トロンボーン、ピアノの為に)【新作初演】 シューマン:ピアノ五重奏曲 変ホ長調 作品44  
【7/18】スメタナ:ロンド、モルダウ(2台8手) ラロ:ピアノ三重奏曲 第2番 口短調 フランセ:八重奏曲  
ダマーズ:四重奏曲 プーランク:フルートソナタ ミヨー:世界の創造

聴いて育てる未来の名門 ～弦楽四重奏の教育・啓発事業

## レポート Phoenix OSAQA 2016

### 今年も開かれる 大阪・兵庫・京都・愛知・東京・茨城・山形から8グループ

あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールは、弦楽四重奏に携わる若い演奏家の育成と併せて聴衆の拡大を図る教育啓発プログラム「Phoenix OSAQA (Open String Academy for Quartet Artists)」を昨年に引き続き、2016年も3月19日(土)から3日間、ザ・フェニックスホールとリハーサル室などを会場に開催しました。

この事業では、1994年結成でベートーヴェンの作品演奏をライフワークと位置づけ取り組んでいる国内ナンバーワンの弦楽四重奏団、ジャパン・ストリング・クワルテット(JSQ)が指導にあたりました。指導を受けたのは、Wäldchen Quartett[ヴェルトヒェン・クワルテット]、Filer Quartet[フィレール・クワルテット]、Quartet STOVE[カルテット・ストーブ]、Gemme Quartet[ジェム・カルテット]、Legame Quartetto[レガメ・クワルテット]、アール・エイチ・ワイ弦楽四重奏団、ソフィアカルテット、piacevole quartet[ピアチェヴォーレ・カルテット]の8団体。JSQメンバーの久保陽子、久合田緑(以上ヴァイオリン)、菅沼準二(ヴィオラ)、岩崎流(チェロ)の諸先生から、演奏のコツや作品解釈について、じっくり学びました。

指導の題材は、JSQが最も得意とする、ベートーヴェンの弦楽四



重奏曲。選曲は随意で、今年も、初期作品として知られる「第3番ニ長調 作品18-3」から中期の「第11番 へ短調 作品95『セリオーソ』」など、さまざまな作品が並びました。指導の全てを吸収しようとする熱意と、真摯にアンサンブルに取り組む姿が記憶に残ります。そして最終日21日(月・祝)には、学習の成果を示す修了コンサートを行いました。

今年には修了コンサートの前に、音楽ジャーナリストの渡辺 和氏をお迎えし、スペシャルトークを開催。「ベートーヴェンのサポーター ～クワルテットの献呈先を手掛かりに」と題し、わずかな時間でしたがベートーヴェンが活躍した時代背景や作品の献呈先などの詳細をお話いただき、ベートーヴェンの作品について、より一層身近に感じていただけたのではないのでしょうか？

ザ・フェニックスホールは来年2017年もこの事業を、3月18日(土)から20日(月・祝)の間、開催します。どうぞお楽しみに。また直前17日(金)は講師JSQの方々によるコンサートを開催します。東西の若手弦楽器奏者が集い、公開の場でこうした演奏を披露する機会は関西では極めて珍しい営み。本事業が継続し、ますます魅力ある事業になるよう努力したいと思います。引き続き、ご支援頂きますようよろしくお願いいたします。

## ザ・フェニックスホール友の会会員様限定 ～2016年度ティータイムコンサート通し券特典 当選者発表!～

2016年2月29日までに、2016年度ティータイムコンサートの通し券をお求め頂いた会員様の中から抽選で5組10名様に、本年度主催公演(ホール指定)のご招待状をプレゼントする限定特典の当選者は以下の方々です。

来月3日はティータイムコンサートシリーズ第2公演目、「アンナ・フェドロヴァ ピアノリサイタル」を開催いたします。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

■プレゼント当選者■ 伊丹市/坂口様 大阪市/久保田様 西宮市/川瀬様 城陽市/和田様 大阪市/山本様

# 音楽と人と時間 ～梅田の街で思う～ 中村 恵理



Keizo Matsui

昨年夏、私はひっそりと梅田駅に降り立った。父の定年退職を機に両親は実家があった兵庫を離れ、妹は忙しく働きながら大阪で一人暮らしをしている。日本を離れて10年となる私は、実家がなくなるということあまり現実として受け止められず、何となく不思議な思いで彼らの引越した後初めて、地元関西へ戻ってきた。いつもなら短い帰省の間に何人かの友人知人に会ったりするのだが、その時はなぜか躊躇して、妹にだけ会うことにしたのだった。

ここ数年で駅周辺が随分変わったとは聞いていたが、もう私の目と頭はぐるぐるするほどショックを受けて、反射的に学生時代からあまり変わっていない紀伊國屋書店のあたりに戻ってきてしまった。沢山の人がエスカレーターに吸い込まれて行く。大阪はヨーロッパと同じで右側に立つので安心なのだが、忙しい街の人々は歩くのも早い。まるで長縄跳びに飛び込むような緊張を感じながら、その列に入り込む。失敗した(と感じた)時は、お邪魔にならないように左側へ歩き去ったりする。誰も気にしていないのに、慣れないせいで少し挙動不審な自分におかしくなってくる。

私が通っていた大阪音楽大学は阪急沿線の庄内駅にあり、そこを超えて向かう梅田はいくつになっても「おでかけする」場所だ。以前から変わらないお店をみつけると嬉しいし、学生時代から好きだったパン屋に今でも同じパンが売っているのを見ると、普段ドイツの黒パンに囲まれて暮らしている私の心は躍って、懐かしい味を楽しんだ。

大阪に通っていた頃、私はオペラに出会い、悩み、情熱と好奇心を育てていた。大学では目立っていなかったし、音大に通ってはいても、まさか将来自分がプロのオペラ歌手になろうとは思ってもいなかった。ただただ恩師のレッスンを受け、アルバイトに明け暮れ、オペラをもっと勉強するにはどうしたらいいか、卒業後、生活と両立させる道

はあるのかと模索する日々だった。

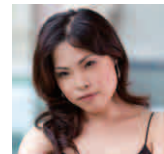
懐かしい街を歩きながら学生時代のあれこれを思い出すと、心の奥がざわめくのを感じた。そのざわめきは、故郷へ帰ってきた懐かしさと、今自分を取り巻く環境とのギャップと相まって、心のなかで不協和音を奏でている。もともと美しい和音が幾つかあり、しかしながらそれらは質の違う響きを持っていて、一緒には出来ないといった感じなのだ。私はどちらの響きも大好きだ。ただ、やはり自分の心の中で繋げるのは難しいのだと思う。自分では難しいのだが、時々、思いもよらない音が入ることで、その不協和音が心を打つハーモニーに変わる瞬間がある。

以前、東京でリサイタルをさせて頂いた時、ホールに何通かお手紙を頂いた。その内の一つに、「突然のことで驚かれました。貴女は学生の頃、某駅構内のケーキ屋さんでアルバイトされていたでしょうか？ 私はその隣の売店で働いていたおばちゃんです。」という書き出しを読んでハッとした。確かにそれは私で、隣の売店のおばちゃんと時々話をしたことがあったのを思い出した。どうやら、当時おばちゃんは私を音大生と知って、将来有名になった時にわかるようにと私のフルネームを書いて、その紙を10年以上も持っていてくれたらしい。

その後、ラジオで私の名前とともに歌声が流れてきて、いてもたってもいられずお手紙しました、という内容だった。母の字に少し似ているその方の手紙を読んで、とても励まされた。遠く海外で演奏活動をしている私と、オペラに夢中になっていた頃の学生の私が、おばちゃんの手紙を通じて再会した瞬間だった。こんな風に私の音が誰かのハーモニーの一端になれるだろうか。とりあえずは仕事で忙しい妹におせっかいを焼いて、また梅田で食事に誘ってみよう。

中村 恵理 (なかむら・えり) / ソプラノ

大阪音楽大学大学院修了。新国立劇場オペラ研修所修了。国内外での研修中に新国立劇場にて「イドメネオ」「ファルスタッフ」などに出演。オランダ留学後の2008年英ロイヤルオペラに所属し、翌09年同劇場にてアンナ・ネトレブコの代役出演を機に注目を集める。2010年よりバイエルン国立歌劇場と専属ソリスト契約。「フィガロの結婚」でデビュー後、数々の主演を務めている。欧米各国で客演ほか、国内ではリサイタル、13年NHK交響楽団第九、14年NHKニューイヤーコンサートなどに出演。12年度アリオン賞、15年度芸術選奨文部科学大臣新人賞。大阪音楽大学客員准教授。



©Chris Gloag

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社は、あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールをフェニックスタワー内に設けています。芸術・文化の発信基地として、関西の芸術文化発展に寄与しています。

〒530-0047 大阪市北区西天満4-15-10 あいおいニッセイ同和損保フェニックスタワー5F TEL 06-6363-0211  
Copyright(C) 2011 The Phoenix Hall All rights reserved. 本誌に掲載された記事、写真、イラスト等の無断掲載を禁じます。

発行年月 2016年5月  
発行 あいおいニッセイ同和損保  
ザ・フェニックスホール  
編集 吉元 晃  
デザイン 松井桂三 有限会社

